

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年6月14日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892600016		
法人名	社会福祉法人 豊潤会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ゆたかな郷	ユニット名	1ユニット
所在地	〒319-2103 茨城県那珂市中里1184-1		
自己評価作成日	平成25年1月6日	評価結果 市町村受理日	平成25年6月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892600016-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892600016-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年2月15日	評価確定日	平成25年5月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・小規模多機能型居宅介護と併設されているため、通いの方や宿泊の方など多くの方と関わりを持ちながら楽しく生活することが出来ます。</li><li>・在宅からグループホームへ入居となり急激な環境の変化で混乱する事が無いよう、入居前より併設する小規模多機能居宅介護の通所・宿泊・訪問のサービスを利用して頂くことにより、利用者同士や職員との馴染みの関係が環境の変化に混乱する事が少なく、グループホームへの入居が可能となっています。</li><li>・平成22年9月～くもん学習療法を取り入れ2年が経ちますが、「読み書き」や「計算」を用いた学習を行う事で、認知症の予防や改善につながるよう継続的に支援しています。</li><li>・平成24年10月下旬～フットケアを取り入れています。入浴拒否がある方への清潔維持・リラックス効果や、むくみのある方の改善・予防につながるよう実施しています。</li></ul>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の隣には水鳥が多数生息する公園があり、豊かな自然に囲まれた静かな環境のもと、利用者はゆったりと暮らしている。</p> <p>管理者は高齢者の認知機能低下予防に効果があるとの情報を得て、高齢者向けの「くもん学習療法」を職員と協力して利用者と一緒に取り組んでいる。</p> <p>週に2回ほどの計算や読み書きの繰り返しを継続することにより、茶碗を拭いた後に指示されることなく自ら食器棚に収納することができるようになるなど、生活の中で取り組める作業が増えている。</p> <p>昨年度からは、職員が外部の研修会に参加をしたことがきっかけとなり、足浴サービスを週間予定に取り入れている。</p> <p>入浴ができない時でも清潔を保ちながらフットケアを行うことでむくみ等の改善が図られ、転倒予防にも効果がみられ、利用者は長い廊下を頻繁に歩いて体を動かしている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が考案した「暮らし・健康・自立支援・介護計画・家族・地域・専門職」の7つの項目に沿った理念を施設に掲示するとともに、毎朝の朝礼時に読み上げる事で共有しながら実践につなげている。	職員で話し合っって作成した「地域を支える施設づくりを目指し、地域との交流を大切にします」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を玄関に掲げるとともに、職員は毎朝の申し送り時に唱和して共有を図り、実践につなげるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動日に自主的に参加し、近隣のゴミ拾い活動を毎月行いながら近所の方と挨拶を交わしています。また、地域の方に事業所での納涼祭に参加していただけるよう声をかけたり、団地のお祭り等への招待や、夏には神輿が施設に寄ってくれるなど、行事ごとの交流もあります。	利用者は日常的に散歩して地域の人々と交流したり、事業所の向かいにある神社の神事に参加している。 職員は月1回地域の清掃活動に参加して地域との交流に努めている。 月2回傾聴ボランティアを受け入れ、利用者はボランティアと一緒にお茶を飲みながら会話を楽しんでいる。 職員は利用者が地域の祭りに参加ができるよう支援している。 利用者と地域の人々との交流の場になるよう今年度は開設以来初めて事業所主催の夏祭りを開催しており、多くの地域住民の参加が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいている地域の方々に、くもん学習療法（H22.9～）での取り組みや経過を報告し、認知症ケアの方法の一つとしてつたえているが、現在は特定の方のみである。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、利用者やその家族、地域や関連機関の方々をメンバーに招き、事業所での取り組み・利用状況等を報告したり議題を問いかけてたりしています。	2ヶ月に1回利用者の代表や地域住民の代表、市職員、民生委員で運営推進会議を開催し、会議録を作成している。 会議では外部評価の結果や行事予定などを報告して事業所の現状を理解してもらえよう努めたり、参加者が協力者となり、明らかになった課題の改善に向けて話し合っている。 地震対策として家具の固定を提案されて実行に移したり、地域行事の情報を得て参加するなど、会議で出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者が運営推進会議のメンバーに入っており、2か月に1度利用状況や取組みについて伝えながら相談・協力を得ています。	市担当者からは感染症予防や対策に関する情報などを得ている。 市担当者に定期的に入居状況を報告しているほか、管理者が介護認定審査会のメンバーとして随時会議に出席するなど、行政への取組みにも尽力し、日頃から円滑なサービスの提供ができるように連携を図っている。 今年度は開設以来初めて市が行う指導監査のための実地検査を受けており、その際に日頃の事業所の取組みへの疑問に答えてもらうなど、協力を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所にマニュアルを置いて全職員が学べるようにしていると同時に、必要時に利用者の所在を確認するチェックリストを作成し、職員の中で確認・見守りを行い、防犯の意味以外での施錠は行っていない。	身体拘束排除マニュアルを整備し、職員がいつでも閲覧できる環境となっている。 玄関に「身体拘束排除宣言」を額に納めて掲示し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。 玄関は利用者が自由に出入りができるように施錠せず、家族等には見守り職員を配置して安全に過ごせるように工夫していることを説明しているが、今年度は身体拘束排除に向けた研修会への参加が実現されていない。	身体拘束をしないケアの実現に向け、外部研修への参加の機会を設けて認識を図るとともに、勉強会を実施して全職員に周知を図ることが重要である。 そのことを踏まえ、3月に予定している外部研修に確実に参加するとともに勉強会を行い、全職員が身体拘束をしないケアについて正しく理解ができるように取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会があれば職員を研修に参加させています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	茨城県社会福祉士会が主催する地域権利擁護事業や成年後見制度についての勉強に参加しています。又、資料として頂いたDVDを参考に、必要時に活用しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスを利用するに当たっての十分な説明と同時に、その時点で利用者・御家族が抱えている不安や希望等を伺い、事業所が提供できるサービスの範囲をご家族に伝え、納得した上で契約を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回生活懇談会を開催し、利用者に意見・不満が言える機会を設け、随時対応しながら運営に反映させています。年に1回の家族交流会では、職員との交流を通して意見・不満・苦情を述べる機会を作っていますが、直接言い難い事もあるためアンケートにて要望等を伺っています。	より良く暮らすために、利用者と職員が一緒に話し合う「生活懇談会」を月1回開催し、利用者が食べたい物や出かけた場所、苦情などの聞き取りをしている。 家族等からは年2回開催する「家族交流会」や年末の大掃除の機会に感想や要望を聴く時間を設けており、出た意見等を受けて、家族等と一緒に作る手作りうちわや趣味活動を継続して行うなど、サービスの質の向上に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフ会議の中で、意見や提案を聞く機会を設けていますが、直接的な意見や提案を聞く事が多くサービス運営に反映させています。毎月2月に全職員と面接を行い、意見を聞く機会を設けている。	管理者は年1回全職員に個人面談を行い、日頃話せない職員間における人間関係の相談を受けて調整を図り、働きやすい職場環境の整備に努めているほか、月1回職員会議を開催して意見や提案を聞くよう努めている。 職員の意見を受け、利用者に好評だった趣味活動のフラワーアレンジメントを継続して実施するなど、職員から出た意見等を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	功労者表彰・永年勤続者表彰制度があり実績により表彰しています。介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員等、資格取得者へパートの方でも資格手当を支給、又、試験会場への交通費を支給している。職員がリフレッシュするために福利厚生として月2回のヨガ教室、月1回のらわーアレンジメントを実施しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員が必要とする研修をそのつどレベルに合わせて選択し受講させるようにしています。職員として必要な知識・技術を法人内の年間計画に沿って勉強会を開催し参加させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	くもん学習療法（H22.9～）を開始後も、すでに取り組んでいる施設を見学して、職員の方から情報をとるなど刺激を受ける機会をとっている。県老協の管理者や、施設の介護リーダーが集う勉強会に参加し意見交換・交流をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前の面会時に、現在困っている事や希望などを本人から伺いながら関係を築けるよう努めている。また、何気ない会話から、普段口に出せないような悩みや不安に気づき把握することもあるので、個々に親身になっての傾聴を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今後、どのようなサービスを望み提供していくのかという相談の中で、御家族がサービスの利用を希望するに至った経緯を伺いながら、不安や負担の軽減を図れるよう対応を行っています。サービス利用開始時には、御家族が相談しやすい環境になるような体制をとっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接で、グループホームと併設する小規模多機能型居宅介護の説明をし、今必要としているニーズがどちらであるか、また、法人で提供出来るサービスであるかも含め説明しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特別な取り組みはしていませんが、普段の生活において利用者から経験豊富な知識や技術を学ばせて頂くことが多く、意見を尊重し傾聴するよう心掛けています。お茶の時間等に利用者と職員が同じテーブルでお茶を飲みながら、話を伺うこともあります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族との交流がなかなか取れない事もあり、小規模と合同で「家族交流会」を企画し開催しています。交流会の中で職員と家族と一緒に食事をしたり、御家族からの利用についての意見を伺ったりしています。大掃除では、職員と家族が意見や知恵を出し協力する事で、関係を深めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設へ利用者の親しい友人や近所の馴染みの方が面会に来られる事もあるため、関係が途切れないような雰囲気を作り職員への対応に注意するとともに、馴染みの場所にも出掛けるなど実施しています。本人が、馴染みの方へ連絡したいという希望があれば電話で連絡が取れるように支援しています。	入居時のアセスメントで利用者や家族等から話を聴き、これまでの馴染みの人や場所との関係を把握するように努めている。 家族等の支援を受けながら墓参りや自宅に帰って食事をするなど、これまでの関係が継続できるよう努めている。 職員は利用者の親しい友人や知人が来訪した際には寛いで過ごせるように居室に案内したり、日当たりが良く自然の景色を眺められる広い個室に案内している。 利用者の馴染みの人との電話を取り次いだり、手紙のやり取りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間に、気の合う親しい利用者同士を隣の席にする配慮をしたりと交流している関係を継続出来るよう大切にしています。また、難聴によりうまく他の利用者と会話が持てない方に対して、昼食のメニューを読んでいただくなど活躍出来る場を設け、交流が持てるよう工夫しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の状況としては、サービス利用が終了した場合、次の事業所に引き継いでいるケースが多い。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントの他に本人からの要望があれば、その都度話を聞き、出来限り意向に沿った暮らしが出来るよう努めています。困難な場合は、御家族からどういった生活スタイルがよいのか昔の話を伺うなどして把握に努めています。	入居時のアセスメントと月1回実施している「生活懇談会」において生活の要望と改善点の聞き取りを実施して記録するとともに、全職員がいつでも確認して情報の共有が図れるようにしており、利用者の望む暮らしが実現できるように支援している。利用者の言葉にならない思いなどは、日々の支援の中で表情や態度から気付いたことを申し送り時に全職員に伝え、共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスを利用する前は、本人や家族と面会してこれまで及び現在の暮らしについての話を聞いていますが、入居後は各利用者に担当職員を決め、その職員を中心に情報収集を行っています。その情報をきちんとまとめ、他の職員にも共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間帯により気分や感情の起伏が激しい利用者もいるため、一人ひとりの生活リズムを把握するためにも一日の様子を記録し、その人らしい暮らしが出来るよう職員全体で支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に、本人や家族から希望や意向を聞いたり、スタッフ会議等にて利用者に関する情報交換を行ったりしながら、最終的には利用者からの要望に沿った介護計画を作成しています。	介護計画は利用者や家族等から聞き取った思いや意向のほか、モニタリング票を基にスタッフ会議で管理者や職員で話し合っ作成し、利用者や家族等に説明するとともに、同意を得ながら日々のケアで実践している。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直しをしながら支援を進めているが、今年度は見直しをするケースはなかった。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っており、現在の状態について普段の会話の中や普段の生活の様子からケアの方向性を見出し、職員間での検討や本人と家族との相談内容を反映しながら作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化については、小規模多機能型居宅介護を併設しているため、GHにおける空室を利用してのショートステイや通所等の利用体験という形で、多機能化として実施して取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で社協のボランティアに来てもらって催し物をして頂いたり、市の主催する催しを聞きに行ったりして楽しむ機会を作っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や御家族に相談して納得や了解が得られた場合、本人の病状や健康状態を考慮しながらかかりつけ医への受診支援を実施し、関係を築いている。御家族の付添が難しい場合は、通院介助・送迎を行い定期的に適切な治療が継続して受けられるよう支援している。	入居前のかかりつけ医を変更することなく、必要に応じて受診ができるように体制を整えている。 家族等の付き添いが困難な場合には職員が通院支援をしているほか、受診結果を電話などで家族等に報告している。 家族等の付き添いで受診する場合は、日頃の状況がわかるよう、家族等を通して文書で主治医に情報を伝えるなどの工夫をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等が利用者にもみられた場合など、常日頃から関わっている施設の看護職員に相談したり指示を仰いだりして、利用者の健康管理を十分に協働しながら支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて、再び施設に戻り生活出来るよう、病院のソーシャルワーカーとの情報交換や相談を行っている。また、面会されている御家族から利用者の状況を伺い退院に向けての調整や話し合いも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来る事、支援の仕方をまだ検討中の段階です。当初6か月の目標としていましたが、今年度中には「重度化した場合や終末期のあり方」の方針を定め、事業所として出来る事を明確にし、支援する体制を取っていきます。	事業所の方針として看取り介護は行わないこととしている。 前回の外部評価結果を受け、「看取り介護に向けた事業所の支援体制を明文化する取り組み」を改善目標とし、家族等に説明及び同意を得るための書類を作成しているが、説明したり同意を得るまでには至っていない。	前回の目標達成計画にも掲げられている通り、利用者及び家族等に事業所の方針を書面で説明し、同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部の勉強会（年間計画にて緊急時の対応、感染対策、応急手当等）や外部研修においても随時学んでいるが、毎回全職員が参加出来ているわけではない。感染対策等、研修で学んだ職員が中心となって、全職員を対象にスタッフ会議時に勉強会を開催し、施設での対応方法を実践しながら学んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成24年度は消防訓練を8回実施。(1月時点) ・夜間建物火災想定：6回 ・夜間建物火災想定(消防署立会)：1回 ・地震想定避難訓練(地域協力)：1回 →今年度は、運営推進会議メンバーを対象に、事業所から緊急連絡網にて避難誘導の協力依頼を実施	消防署の立会いを含め、夜間や地震を想定した避難訓練を年2回以上実施している。 緊急連絡網や避難経路図を事業所内に掲示し、利用者や職員がいつでも確認ができるように整備している。 避難訓練の実施記録を作成するとともに、訓練で明らかになった課題の改善に向けて検討している。 前回の外部評価結果で避難訓練への近隣住民の参加が求められていたが、その後は避難訓練に近隣住民の参加が得られており、災害時の協力体制構築に取り組んでいる。 災害時に備え飲料水やレトルト米、毛布、懐中電灯、ラジオ、発電機などの他、貯水タンクに生活用水を備えている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中において一人ひとりの個性を大切にし、常に「人生の先輩」として尊厳や尊敬の気持ちを忘れないよう言葉かけと対応を行っている。居室に職員が入室する際、一言お断りするなどプライバシーに細心の配慮をしている。	プライバシー保護に関するマニュアルは事務所などに備え付け、職員がいつでも閲覧ができる状態となっている。 職員は年長者を敬う気持ちで利用者に声かけをしたり、利用者の目線に合わせた姿勢で話しかけるなど、利用者の人格を尊重してプライバシーを損ねない支援に取り組んでいる。 利用者の個人情報に関する書類は、事務所内のカーテンで目隠しをした棚に保管しているが、施錠できる環境で管理するまでには至っていない。	前回の外部評価結果を受け、適切な個人情報の取り扱いに向けて保管場所の変更やカーテンを取り付けるなどの取り組みを進めているところであるが、更なる取り組みとして、個人情報に関する書類は施錠できる場所に保管し、盗難や悪用されることへの対策を講じることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	旅行やレク、買い物外出等、行事への参加や日々の入浴などは一方的に決めることはせず、そのつど本人に決めて頂くよう心掛けています。一人での意志決定が難しい方に対しては、選択肢を提示して出来る限り本人の希望に沿いながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らし方は、食事・お茶の時間は生活の流れとして決めています。それ以外のレクや行事等は不活発にならないようにしながら本人のペースで参加・見学して頂き、本人のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの趣向を大切にし、家族からの協力を得て昔からの服装が着れるようにしたり、利用者の希望時に合わせて近所の美容院に出張してもらい、カット・カラー・パーマが出来るように支援しています。起床時に自身で身だしなみの出来ない方には、髪をとかしたり顔を拭いたりと整容面にも配慮しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、一人の職員が料理の感想を話しながら利用者と一緒に食事をとっています。食事を楽しみにしている方が多く、出来る方には野菜の皮むき等の調理を手伝って頂き、後片付け時には食器拭きをお願いしています。昔馴染みや季節の料理などは、利用者の知恵を生かしながら一緒に行う事もあります。	職員は利用者の嗜好を把握しているほか、行事食を取り入れたり利用者がおやつ作りに取り組めるよう支援し、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。 利用者は食事の準備や後片付けなど、できることは役割を持って取り組んでいる。 職員は利用者と一緒に同じ食事を摂り、会話を交しながら楽しく食事ができるよう支援している。 年間の行事予定にそって外出した際には、事前に利用者全員と相談して決めた店に出かけ、外食が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎に食事量を記録することで一日の栄養摂取量を把握しており、摂取量に応じて栄養補助食品を摂取して頂くなど一人ひとりに合わせた対応をしている。糖分制限のある方には、ごはんを100gにしたりおやつ時に甘い飲み物を控える等の制限をしたり、塩分制限がある場合は、味噌汁の回数を減らすなど必要なエネルギーを摂取できるよう配慮している。水分摂取は、必要な方だけ記録し、好みの飲み物を提供しながら工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ・誘導をし口腔ケアを行っている。入歯の方は極力外して磨いて頂き、介助が必要な方には歯磨きシートで磨く工夫をし、その方に合った口腔ケアを実施しています。必要に応じて訪問の歯科医師による治療と指導を受け、口腔内の清潔が保持出来るよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方に対し排泄チェック等をつけ、認知症があり、尿意や便意があっても訴えることが出来ない方の排泄パターンやそわそわしているタイミングを見つけ、声かけ・誘導しています。利用者が不快な思いなく排泄が出来るよう、職員間で情報を共有し統一したケアが行えるよう支援しています。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを計りながらトイレ誘導をしているほか、自立した排泄ができるよう声かけと介助に努めている。 トイレは広く、車いす使用の利用者でも使い易い広さを備えている。 以前は手すりが設置されていないトイレがあったため、前回の外部評価結果で「排泄の自立に向けた環境づくり」が提案されたが、その後可動式の手すりを設置して介助が必要な状態でも自立した排泄ができるよう改善している。 必要に応じて居室にポータブルトイレを設置し、無理なく自立した排泄ができるように支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は一日1000ccを目安に摂取し、便秘の方や心配な方には水分を多く摂って頂くようにしていますが、利用者の好みに合わせて乳製品や乳酸菌飲料を積極的に飲んで頂き排便を促しています。また、10時のリハビリ体操で無理なく身体を動かして頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週間予定表にて決めています。利用者の希望に合わせて入浴日ではない日に入浴したり、足浴を実施したりしています。拒否が強い利用者については、毎日入浴の声かけをしています。	利用者に確認したところ、午前や夜間の入浴を希望する利用者がいないため、入浴時間は午後としており、毎日入浴ができる体制となっている。 体調により入浴ができない日があっても、必ず週2回から3回は入浴ができるように支援している。 入浴に対して負担を感じている利用者にはシャワー浴や清拭、足浴などの対応をしているほか、入浴が楽しめるよう一人ひとりに合った声かけをしたり、季節に応じた入浴剤を使用するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は、本人の体力や年齢に合わせて自由に各居室や食堂の和室で気軽に横になって休んでいただいています。昼夜逆転にて夜間眠れず不快な思いをされている利用者には、日中本人が好まれる活動を促して夜間十分に休むことが出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を一冊のファイルにし確認し、一人ひとりの服薬内容を職員各自が確認できるようにしており、内服の飲み忘れがないよう注意を払っている。下剤等の便秘薬については、看護職員と相談の上、便の状態により服薬を中止するなど臨機応変に対応している。症状の経過等については、ミーティング時に報告し次の病院受診時Drに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症の予防・改善だけでなく、日々の日課の一つとして「くもん学習療法」に取り組んでいただいています。利用者一人ひとりに合わせた介護計画を立て、本人が役割を持って日々過ごせるよう支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や季節に合わせて散歩に出掛けています。冬は、敷地隣の池に白鳥や鴨などの渡り鳥が飛来するのでエサをあげに出掛けたり、春は桜の花が敷地周囲に咲くなど環境もよいので時間を見つけて気分転換を心掛けています。また、行きたい場所を聞いて遠足や食事外出などの行事を計画したり、冬の時期を除いて月に1度近所のスーパーへ買い物に出掛けられるよう支援しています。	利用者は日常的に散歩に出かけ、近隣の公園に生息する水鳥や桜などを観て楽しんでいる。 職員は年間の外出計画を作成し、観梅や水族館、竜神橋などへのドライブ観光や果物狩りなどを企画し、普段は行けないような場所への外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出の際や遠足時にお土産を購入したいといった場合に、可能な方にはお預かりしているお金をお渡しし、レジでの支払いが出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族やご友人への電話は、本人の要望に応じて電話が出来るよう支援しています。手紙については、本人に代わってポストへ投函しやり取りが出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のみでなく面会に来所される方など、誰もが居心地良く過ごせるような清潔感のある共有空間づくりに配慮しています。また、季節に合わせた行事ごとのレク作品や飾り付け、職員や利用者が活けた花などを飾るようにしている。	日当たりの良い居間兼食堂からは周囲の景色を見渡すことができ、利用者は季節の移り変わりを感じながら過ごしている。 居間兼食堂に加湿器を設置しているほか、観葉植物や折り紙で作った利用者の作品を飾り、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。 廊下には「職員紹介」として全職員の笑顔の写真と名前が掲示されており、利用者や家族など訪れる人々に安心感を与えている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や談話室（相談室）は南側に面していて日当たりが良いので、時々窓際に座り日向ぼっこをしたり、ソファでゆったり休まれたりと、一人ひとりの心身に合わせて過ごせるよう配慮しています。全室個室なので、居室で一人自由に過ごされたり気の合う方同士で居室を往来されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持ち込んで頂き、御家族の写真を飾ったり、テレビや家具で自室でくつろいだりと、居心地のよい空間づくりに努めている。	利用者は家族等の協力のもと、使い慣れた家具や電化製品、お気に入りの本、アルバム、置き時計などを持ち込んだり、家族の写真や絵、カレンダー、ぬいぐるみ、生花などを飾り、安心して生活ができるような居室づくりをしている。 職員は居室の出入り口に湿温計を設置して湿度や温度に気を配り、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造の建物で家庭に近い造りになっていて、車イス対応でバリアフリーになっているため、杖歩行や歩行器での移動などが安全に出来る環境にもなっています。自立支援を目指し「見守り・寄り添う」ことしか出来ませんが、生活機能を低下させないように努めています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ゆたかな郷

作成日 平成25年6月10日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束をしないケアについて研修予定ではあるが、調査時点で未実施であった。	身体拘束に関する研修会の実施。	3月22日(金)県社協 運営適正化委員会が主催する研修へ職員2名で参加する。研修の資料をもとに、「身体拘束をしないケア」についての勉強会を6月26日のゆたかな郷スタッフ会議にて実施する。	3ヶ月
2	12	利用者及び家族等に、事業所の方針を書面での説明・同意を得ていない。	全利用者の家族に書面で説明し、同意を得る。	サービス担当者会議の際に、家族に書面で説明し、同意を得る時間を設ける。	6か月
3	14	利用者の個人情報に関する書類を、施錠できる環境で管理していない。	個人情報に関する書類は施錠出来る場所へ保管する。	利用者の個人情報に関する書類は、施錠出来る棚へ保管し、必要時以外は施錠する。	1か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。